

サービスラーニングを通しての学びについて

活動先：NPO 法人 チャレンジド
クラス：石川 満 先生

1. はじめに

私はこの夏、チャレンジドで様々な活動をさせていただき、多くのことを学んだ。

チャレンジドでさせて頂いた活動は、障害を持った子どもの日中一時支援、まつり企画、キャンプ企画、の3つである。

2. 特に印象に残った活動

私がこの中で特に印象に残った活動はキャンプ企画である。これはチャレンジドにとってもほぼ初めてのお泊まり企画であり、私たちは準備の段階から参加させて頂いた。

このキャンプはとにかく内容が盛りだくさんであり、地引網、BBQ、海水浴など夏にする遊びはほぼすべて入っていた。当日前までは BBQ するところの下見や、海水浴後に入る温泉の予約などを手伝わせて頂いた。私は障害を持った子どもたちとふれあうこと自体あまり経験がなく、そのなかでお泊まり企画を行うということは、正直、多少不安があった。そして子どもたち自身も慣れていない状況に戸惑うのではと感じていた。

しかし、その不安は見事に外れた。子どもたちと共に地引網や海水浴などを力いっぱい楽しみ、終始笑顔の子も少なくなかった。ただ、夜はなかなか皆寝付くことができず、朝までずっと起きていた子もいた。

このキャンプで一番印象に残ったことは、花火をやった後の帰り道、チャレンジドの男の子から、「こんな楽しいチャレンジド初めて！」と言われたことである。私たちが手伝ったことはほんの少しのことであるが、この時やって良かったと感じた。この企画は親さんやスタッフさんの協力がとても大きく、いろいろな人の支えがあったからこそ、無事に皆楽しく過ごすことができたのだと考える。

3. 活動を通してのきづき

活動を通しての気づき・成長したことは、今まで自分が経験してこなかったことに触れ、障害を持った子どものことや、その保護者の方々、そして地域にある NPO について、いろいろな考えができるようになったことである。

前述したように私はこれまで障害を持った子どもとふれあうことがなく、それこそ最初の日中一時支援で子どもたちとあった時、緊張しっぱなしであり、自分から積極的に関わることもできずに、ただ時間が過ぎていくだけであった。

チャレンジド自体、私が活動する前に想像していたような厳しいイメージとは全く異なり、民家を使っていることもあるが、のびのびとしていて自由な印象を受けた。子どもたちの元気の良さに圧倒され続け、気が付いたら終わっていたという印象である。活動をしていくうちに自分からも関わるできるようになり、その接し方もわかってきた。

子どもたちは同じ疾病だとしても、それぞれの個性や程度によってとても違いがあり、その関わり方も違って来る。危険なことをしたときには、しっかり目を見て何がいけないのか具体的にかつ、わかりやすく伝えなければならないと学んだ。そして、担当について子だけを観るのではなく、周りを見ながら全員とコミュニケーションをとるようにすると良いのではと感じた。

このチャレンジドの始まりは日本福祉大学に通っている障害学生のサポーターである。そして、美浜町には障害を持った養護学校に行った後、子どもが集まれるような場所がなかったため、この日中一時支援を始めたという。

お疲れ会での、日中一時支援を担当し、このサービスマーケティングを通して、とてもお世話いただいた人の言葉がとても心に響いた。それは「なぜこの仕事をしているのかというと、僕が住んできた町を少しでも楽しい町にしたいだけなんだ。」という言葉である。この言葉には、障害を持っている子ども達のサポートが現状では充実しているとは言えない美浜町を自分自身の力で何とかしたいという熱い思いが込められていると感じた。

都会はともかく田舎の方ではまだまだ福祉サービスなどが全く足りていないところがたくさんあり、そうした地域に住んでいる人たちが、障害あるなし、児童、高齢者関係なく、より楽しく暮らしてもらえるために活動することが、地域に根差した NPO の役割のひとつだと考えた。

ちゃれっこまつりの目的としてチャレンジドを地域の人たちに知ってもらうというものがあり、ケーブルテレビでも紹介された。ちゃれっこまつりで私は、日本福祉大学のサークルの一人としても参加させていただいた。私の入っているサークルは子どもたちと集団遊びをしたり、人形劇をするものであるが、その人形劇をちゃれっこまつりの企画のひとつとして公演させていただいた。その人形劇の練習もあり、ちゃれっこまつり自体の準備にはあまり参加できなかったのだが、看板作りなどを手伝わせていただいた。

ただ専門職の人が援助を行うだけでは、人員不足などの様々な問題がある。そのため、ヘルパー養成などで地域の人たちに福祉を広め、地域の人たちが自ら福祉を行っていく形が理想である。その福祉を広めるためには、まず、偏見というか、負のイメージを変えることが重要であると考えた。

活動を知ってもらう場として、ちゃれっこまつりがあり、来年また行うとするならば、ぜひ参加したい。活動を通して関心を持ったのは、子どもたちの将来についてである。現在、美浜町には障害を持った人が働く授産施設がひとつしかない。こうした現状に親さんやチャレンジドの方々はどういう風に考えているのか、研究をしていきたいと考える。

私はこのサービスマーケティングの活動を終えた後、チャレンジドさんで重度訪問介護の資格をとらせていただいた。もともとヘルパーの資格には興味があったが、このサービスマーケティングの活動を通して、もっと多くのことを学びたいと思ったからである。

最後に、私たちは NPO 法人さんの活動に参加させて頂いて多くのことを学ばせて頂いたが、受け入れてくださった NPO 法人さん自身にも、この夏私たちが行った活動が少しでも良い刺激として伝わっていれば活動としてはとても良いものであると考えた。